

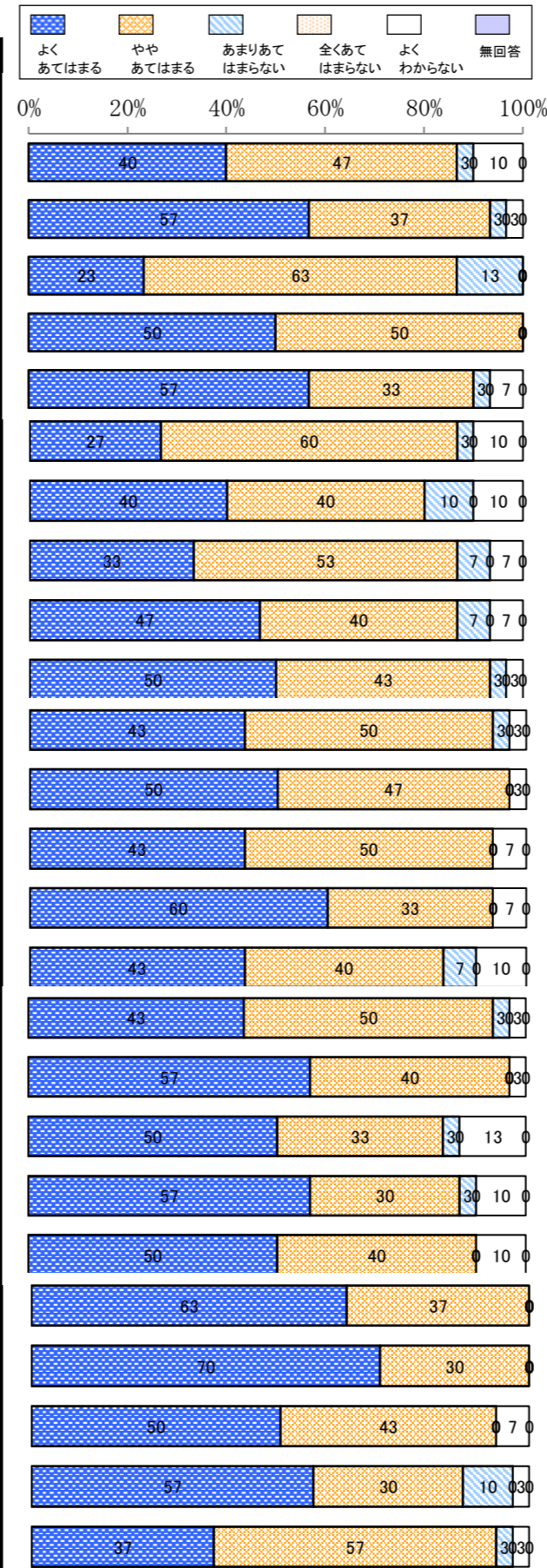
令和4年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立汐入東小学校

様式 4

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
		A	B	C	D	よく分らない	無答		
学校全体の様子	1 教育目標・方針	44	42	8	1	6	0		
	2 児童・生徒の様子	69	24	5	1	1	0		
	3 基本的な生活習慣	58	35	6	2	1	0		
	4 児童・生徒理解	32	47	15	3	3	0		
	5 健康・安全・安心	63	26	7	2	1	0		
学力向上の取組	6 分かる授業	57	31	9	2	2	0		
	7 個に応じた指導	61	32	4	1	2	0		
	8 学習習慣	63	25	9	2	0	0		
	9 情報教育	63	26	10	1	0	0		
	10 学校図書館の活用	39	40	16	3	3	0		
社会性・人間性の育成	11 人権教育	67	28	3	0	2	0		
	12 道徳教育	42	39	13	2	4	0		
	13 教育相談	43	28	17	7	5	0		
	14 人間関係づくり	77	17	4	1	1	0		
	15 自治的な活動	60	31	7	1	1	0		
保護者・地域との連携	16 情報発信	41	28	11	3	16	0		
	17 相談への対応	54	32	7	3	5	0		
	18 学校への参加	59	25	11	3	3	0		
	19 地域との連携	32	29	24	10	5	0		
各学校の特色ある教育	20 意見の反映	56	28	6	1	9	0		
	21 学校図書館	54	32	7	2	5	0		
	22 安全対策	53	37	8	2	1	0		
	23 学力向上	77	19	2	1	1	0		
	24 体力向上	58	25	14	2	1	0		
25 人材活用	57	28	6	2	7	0			

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

毎月の学校便りの文面等を通して、方針を示してきた。保護者の肯定が90%を超え、十分伝わっていると評価できる。

コロナ禍の生活の中にも楽しさを見付けられている児童が増えてきたように感じているのか、A評価が16ポイント向上した。

児童のA評価(57%)に対して保護者(27%)や教職員(23%)の評価は低い。児童の「やっているつもり」の意識改善が必要か。

児童の肯定は80%弱。向上させるために、教職員が引き続き一人一人の児童理解に努め、良好な信頼関係の構築が必要。

各月の避難訓練などを、コロナ前に近づけて実施するようにしてきた結果、教職員のA評価は10ポイント向上した。

児童のA評価は56%に対し、教職員は26%。研究や研修を通して、指導に自信をもって授業に臨めるようにする。

教員のC評価が10ポイント増えた。個に応じた指導の難しさを感じているのが伝わる。一層の研鑽を必要とする。

児童のA評価(63%)と保護者(25%)、教職員(33%)との間に乖離あり。自己を客観視する手立てが必要か。

タブレットPCを活用した授業展開が飛躍的に増えた。指導スキルを磨き、保護者の高いニーズに応えられるようにする。

図書館での学習活動や休み時間の利用が可能になり、概ね満足できる結果となった。今後も特色ある教育活動として注力する。

児童(67%)、教職員(43%)、保護者(23%)とA評価にばらつきが見られる。今後も丁寧に指導し保護者に伝えていく必要を感じる。

道徳公開授業が実践できた。道徳の授業だけでなく、引き続き全教育活動を通して、児童の道徳性を育てていく。

児童(42%)、教職員(43%)のA評価に対し、保護者が低い(21%)。今後も組織的に対応していく必要がある。

コロナ対策をしながら運動会や学芸会、宿泊行事などを実施できたことで、A評価が高まった。

自発的・自治的な活動の基盤となる資質・能力を、日々の生活や行事等を通して、着実に身に付けさせていく指導が必要。

保護者の94%が肯定。今後も、時代に即した方法を模索しながら情報発信に努めていく。

「クラスみんなで」という活動が、年々難しくなってきた。個々の問題に真摯に向き合い、組織的に対応せねばならない。

児童の健康や安全を優先したため、制約の多い学校行事が続いたが、行事後の感想では多くの保護者から肯定的な声が届いた。

コロナ禍ではあるが、少しずつ校外に出たり、校外の方を招き入れたりできるようになり、数値が向上した。

保護者感想をもとに行事運営の改善を図っている。その状況を効果的に発信し、家庭の理解をさらに得られるようにしたい。

司書教諭や学校司書が先頭に立って図書館活用に取り組んできた。児童・保護者のA評価をさらに上げていきたい。

昨年度より数値が低下した。感染症の終結が見えない中、様々な教育活動が再開してきたことが要因かもしれない。

体験的な活動による学力向上を児童自身が実感できている。引き続き、体験的な活動を取り入れた指導計画を立案していく。

運動会、水泳、持久走記録会などの体育行事を通して、児童が自らの体力向上を実感できていることが分かる評価となった。

小学校でのwithコロナにご理解いただいた上、講師をしていただける方が増えてきたためか、昨年度より高い結果が出た。